

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 全日制)

目指す学校像	人間性豊かな 地域産業を担う職業人の育成
重点目標	1 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る 2 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する 3 物事を探求できる力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する 4 協働教育による開かれた学校づくりを推進する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	14名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校関係者評価	
3年度目標				3年度評価(2月1日現在)		実施日 令和4年3月24日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 授業や資格取得に対して主体的に取り組む生徒が増加傾向にある。授業や学校生活に前向きに取り組む姿勢が見られる。 【課題】 主体的・対話的な言語活動の伴う授業や、資格取得に積極的に取り組める環境を整え、学習意欲の向上と共に、自ら考える力を引き出す必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上を目指した授業の改善 	①生徒に学ぶ楽しさや達成感を味わわせることができる課題や学習内容、学習方法を検討し実施する。 ②DX時代に対応できる力を身に付けさせるため、ICTを積極的に活用するとともに、各教員が「主体的・対話的な深い学び」を引き出す授業に取り組む。	①生徒アンケートの「自主学習することが習慣化している」が前年度より上昇したか。 ②生徒アンケートの「授業に主体的・積極的に取り組んでいる」が前年度より上昇したか。	①生徒アンケートの「自主学習することが習慣化している」が43%となり、前年度より4ポイント上昇し、過去5年間で最も高くなった。 ②生徒アンケートの「10分前登校に努め、余裕を持った1日をスタートできている。」79%。「授業に主体的・積極的に取り組んでいる」が81%。「授業内容がよく分かっている。」76%であり、学習意欲が年々上昇している。	B	○生徒の学習に対する取り組みをさらに向上させるため、「自主学習することが習慣化している」の50%超を目指し、学習改善及び授業改善に努める。 ○新学習指導要領のスタートを迎え、「主体的・対話的な深い学び」を実現する授業を実践するとともに、観点別評価を活用した学習改善及び授業改善に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> 資格取得に向けた指導の充実 	①生徒や保護者に対し積極的に資格取得に関する情報を提供する。 ②資格取得に向けた特別講座等を計画的に実施し充実させる。	①生徒アンケートの「資格取得が充実している」が前年度より上昇したか。 ②資格取得に向けて、取り組む生徒が前年度に比べて上昇したか。	①生徒アンケートの「資格取得が充実している」が80%であり、第1種電気工事士合格者数が全国トップクラスになるなど、教職員の声掛けや質の高い資格取得に向けた特別講座の成果が出ている。 ②生徒アンケートの「資格取得に向けて積極的に挑戦している」が前年度より上昇し、59%となった。	A	○工業高校の大きな魅力の一つである資格取得を推進するため、生徒・保護者に対し積極的に資格取得に関する情報を提供する。 ○生徒への声掛けや資格取得に向けた特別講座などの支援・指導の充実を図り、生徒が意欲的に挑戦する環境を整えていく。
2	【現状】 今後、新型コロナウイルス感染症の影響が、生徒の学びや生活面に少なからず表れるものと考えられる。 【課題】 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を図るため、これまで以上に教育活動全体をとおした指導を行う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立 自己肯定感の醸成 	①生徒指導部と学年が連携し、遅刻防止指導を組織的に行う。 ②生徒指導部通信等を活用し規範意識の醸成を図るとともに、学校を誇りに思える生徒の育成に努める。	①遅刻者数が前年度より減少したか。 ②生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が前年度より上昇したか。	①年間の遅刻者数が延べ1,139人(R2:延べ812名)。昨年比1.4倍であった。 ②生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が82%となり、前年度と同様に高い水準で推移している。生徒指導部通信を5回発行し、規範意識の醸成を図った。	B	○遅刻防止のための登校指導や、生徒指導部通信の発行などを継続し、生徒が規則正しい生活習慣を確立するとともに、規範意識の更なる向上を目指す。
		<ul style="list-style-type: none"> 5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の定着 自己管理能力の向上 	①生徒手帳を活用する機会を充実させるとともに、特別支援教育委員会を中心に、自己管理能力の育成に努める。 ②日頃の教育活動及び生徒会の諸活動を通して、5S活動の定着を図る。	①生徒手帳の活用調査で、行事や授業における活用状況割合前年度より増加したか。 ②生徒アンケートの「5S活動に取り組めた」が前年度より上昇したか。	①生徒アンケートの「生徒手帳の活用状況」が昨年より4ポイント減少し、39%となった。 ②生徒アンケートの「5S活動への取組」が70%、「交通のルールやマナーを守っている」が95%であり、高いレベルで推移している。	B	○生徒自身のスケジュール管理や、学年集会等でのメモ取りなどを推進し、組織的に生徒手帳を活用する場面を設け、習慣化を図る。 ○5S活動やSDGsの意義を再確認させるとともに、生徒自身がより意欲的に活動できるよう支援・指導を行う。
3	【現状】 新型コロナウイルス禍においても、就職試験の合格率は、全国平均よりも10%以上高い水準を維持することができた。 【課題】 分掌および学年が連携するとともに、地域の教育力を活用し、生徒の勤労観や職業観の育成のための指導方法を検討・実践する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 社会人基礎力の向上 	①学習活動や部活動、学校行事をとおして、考え抜く力(課題発見力、計画力、創造力)を育成するために、計画的に取り組む。 ②各教科・学科と学年が連携し、学校における諸活動を通じて、生徒が将来の目標に向けて前に踏み出す力の育成を図る。	①生徒アンケートの「委員会活動や部活動、学校行事へ積極的に参加した」が前年度より上昇したか。 ②部活動加入率が上昇したか。	①新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が制限された状況の中でも、委員会活動は81%、部活動は69%、学校行事は87%になるなど、積極的に活動参加した生徒が、いずれも昨年度より上昇した。 ②部活動加入率は84%(5月時点)と高いレベルで推移している。	B	○県の基本方針「感染防止対策を徹底しながら教育活動を行う」に基づき、計画通りに学校行事や部活動に組織として一体となって取り組み、目標に向けて前に踏み出す力、ゴールに辿り着く力を育成する。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育力の活用 勤労観の醸成 	①進路指導部、体験活動委員会、学年等が連携し、インターンシップや進路ガイダンス、外部講師による講話などを計画的に実施する。 ②各教科・学科と学年が連携し、生徒の活動の成果を発表・発信する機会をつくり、表現力や傾聴力の伸長を図る。	①生徒アンケートの「進路行事に積極的に参加している」が前年度より上昇したか。 ②課題研究発表会やインターンシップをはじめ、地域の教育力を活用した本校の特徴ある取組を学校内外に伝えることができたか。	①アンケートの「適切な進路指導が行われている」が85%であり、就職内定率も全国平均よりも10ポイントほど高いレベルで推移している。また、「進路行事に積極的に参加している」が前年度より10ポイント上昇し、65%となった。生徒の進路への関心が高まっている。 ②工業全学科が、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、工夫しながら課題研究発表会を実施するとともに、HP等を活用し学校内外に伝えた。学科によっては保護者参加があった。	A	○コロナ禍においても、就職内定率100%を目指すとともに、第1希望の進路実現100%を目指し、生徒の支援・指導を行う。 《参考》就職内定率(10月末時点) 本校84.4%、全国75.1%、工業87.4%
4	【現状】 地域、企業との連携による協働教育は浸透しつつある。本校の魅力を伝えるため、情報発信に努めた。 【課題】 地域と学校の信頼関係の深化を図り、地域とともに人材を育成する協働教育を一層推進する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 社会に貢献する取り組みの実践 積極的な魅力発信 	①チャレンジスクールや出前授業をはじめ、地域と連携した取り組みを積極的に実施し、地域社会とのつながりを深める。 ②学校ホームページの更新やその他刊行物の定期的な発行・配布など広報活動を積極的にを行い、本校の魅力を学校内外に発信する。	①地域との連携を深める取り組みを積極的に実施することができたか。 ②本校の魅力を学校内外に十分伝えることができたか。	①工業全学科で、企業や大学・専門学校との連携事業が行われた。近隣小学校の周年行事として「シュートボードの共同制作」や泰平中学校チャレンジスクール、海外とのオンライン授業を行うなど、外部連携を積極的に進めた。 ②感染防止対策を徹底しながら、中学校等の依頼による出前授業を8回実施した。学校説明会には、延べ854人(約420組)の参加があった。南部地区中高進路指導キャリア教育研究協議会をリモートで開催し、約160人の参加があった。	B	○国事業「マイスター・ハイスクール」を活用し、地域社会との連携を強化し、生徒の学習改善と教職員の指導改善を図る。 ○生徒の日々の学校生活の様子や本校の魅力積極的に学校内外に発信するとともに、他校種(小高・中高・高大)連携を一層推進し、日本を支える技術者を育成・輩出する。
							・取り組みの結果として、生徒の「自主的、主体的、積極的」意識が向上し、アンケート結果と資格取得の数値にあらわれている。 ・第1種電気工事士合格者が、全国トップクラスにあることに感動した。 ・資格取得特別講座において、朝補習などを取り入れ、項目2の遅刻対策の一貫とすることも考えたらどうか。 ・授業に主体的に取り組んでいる生徒が多い反面、自主学習することの習慣化が50%を切っている。資格取得を前面に押し出し、そのためのノウハウの勉強も学習の一環と捉えれば向上するのではないか。
							・コロナ禍の未曾有の状況でありながら、先生方のご苦勞は計り知れない。生活と心の持ち方が大きく影響のある課題と感じているので、引き続き、ケアをお願いしたい。 ・5S活動の定着を期待する。 ・大学でもスケジュール管理ができない学生の履修が問題となっている。是非、これを身に付けさせて操業させる重要課題として取り組んでいただきたい。
							・昨年度から続いて、行事や活動が計画通りに実施できない1年であったと想像する。コロナ終息にはまだ時間を要すると推察する。引き続き、感染防止対策を願う。 ・インターンシップ受入企業として年々生徒の人間力が向上していると感じている。 ・コロナ禍の中、学校行事、部活動等の運営が厳しいことは周知しているが工夫を凝らし、少しでも多くの体験活動を行っていただきたい。 ・生徒の主体的活動が伸びていることは好感を持つ。コロナ禍において、コミュニケーションが不足している中でこそ、積極的に場を設定する必要がある。
							・過去より、宮工の地域連携と小中学校との連携した活動には、大いに好感を持っている。継続するには多大なパワーが必要だが、今後も継続することを希望する。 ・高校生が地域社会に貢献する活動は素晴らしい。 ・「マイスター・ハイスクール」を起爆剤として、工業高校改革につなげてもらいたい。 ・外部との連携については好感の持てる活動である。